

開 催 日： 令和 7 年 6 月 5 日(木) 天候 晴	開催テーマ： 日蓮上人ゆかりの大明寺と衣笠・平作の社寺を訪ねる
開催場所： 横須賀市	記 入 者： 松崎寛
参加人数： 会 員 31 名 ビジター 1 名 計 32 名	
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 等）： コース： JR衣笠駅（集合）～大明寺（本堂・釈迦堂拝観）～大光寺（昇堂拝観）～平作神社～大蔵寺～横須賀しょうぶ園前（解散） 今回は、日蓮上人ゆかりの寺と平作（ひらさく）の寺社を訪ねた。 集合は衣笠駅。横須賀線は昭和 19 年に横須賀から久里浜まで延長された。資材不足のため御殿場線を単線にしてレールを流用。衣笠駅は久里浜駅と設計を共通にして工期を短縮したので似た駅舎となっている。 平作川にかかる舞台橋を渡る。源頼朝旗揚げ時の三浦一族の棟梁だった三浦大介義明が、この近くに舞台を作り、地元の人間を饗応した、と伝わる。そこから舞台橋という名前がついたと言う。 橋の脇から続く舞台坂を歩いて、大明寺に向かう。 金谷山大明寺は、日蓮宗。建長 5 年（1253）米ヶ浜海岸に着岸された日蓮上人に帰依した土地の豪族石渡左衛門則久が「三浦法華堂」を建立。第六世日栄上人が「三浦法華堂」を明徳 3 年（1392）に当地へ移し、大妙寺と改称。徳川家康より 16 石を賜り、三浦半島の日蓮宗 32 ヶ寺の総本山として栄えた。ある時、朱印状の「妙」の字を「明」と誤り書かれたことから「大明寺」となった、と。太田道灌の子資康の墓がある。資康は、三浦道寸義同の娘を妻としており、北条早雲と戦い戦死した。 大木となるメタセコイアがシンボルの野球場のある衣笠公園を歩いて大光寺へ向かう。大光寺は元亨元年（1321）に真言宗より法華宗（現日蓮宗）に改宗した。大明寺末寺主要五ヶ寺（妙蔵寺、妙覚寺、常勝寺、本園寺、大光寺）の一つ。本堂入り口に住職が大明寺に行く時使用した駕籠がつるされており、「かご寺」とも呼ばれている。 明治の末期まで平作村の各地に五社（皇大神社、白山社、御嶽社、正真子社、諏訪社）が鎮座していたが、大正 2 年（1913）、国の一村一社の方針により、五社がすべて衣笠神社に合祀された。昭和 2 3 年に皇大神社が平作陣ヶ原に遷座合祀された。さらに、昭和 3 2 年には土地の寄進を受け、平作中心部のこの地に社殿が竣工した。「氏子役員募集中」のポスターが張ってあったが、ここも人手が足りないようだ。 日蓮宗大明寺末の大蔵寺の境内に瘡守稲荷（かさもりいなり）がある。瘡守稲荷は宝暦 4 年（1754）江戸で疱瘡が流行って多数の死者を出したことから村に厄除稲荷尊として祀った。文化元年（1804）郷土力士岩男浪（いわおなみ）が関西相撲との一戦を目指し日夜稽古に励んだが、悪病にかかり力も落ちた。大蔵寺のお稲荷さんに、お籠りしてお願いしたところ元の体に戻り、関西相撲に勝つことができた。不思議なご利益のお稲荷さんとして、家内安全等の祈願の参拝者が絶えない。 妙蔵寺には、時間が足りなくて行かなかった。 「しょうぶ園」は、14 万株の菖蒲が植えられており、市制 80 周年を記念し昭和 6 3 年に開園した。今回は「しょうぶ園」の前のバス停で解散。そのまま菖蒲園に向かう人、衣笠駅に戻って反省会に行く人等別れて、帰途についた。	
参加者の状況・意見など 参加者 32 人と前回に続き 30 人超えた。暑くもなく、それほどの高低差もなく、衣笠、平作の散策を皆さん楽しんでいた。	
次回の予定： ・ 令和 7 年 7 月 3 日(木) 10 時 JR金沢文庫駅 テーマ「金沢の古刹住職のお話を聞く」 ※熱中症警戒アラート発令時は法話のみ実施、同重大警報アラート発令時は中止。 ※イヤフォンΦ3.5mm 持参(無線ガイドシステムを使用)	